

自民党 情報産業振興議員連盟総会で情報サービス産業界の要望

平成 25 年 3 月 5 日、自民党本部において情報産業振興議員連盟総会が開催され、JISA と JEITA((一社)電子情報技術産業協会)が業界の要望を行った。

当日は、菅原一秀情議連事務局次長・経済産業副大臣の司会により議事が進められ、額賀福志郎会長、細田博之幹事長、茂木敏充事務局長・経済産業大臣から挨拶があった。額賀会長からは経済活性化と効率化の観点から IT を活用して経済成長を実現するとのメッセージがあった。細田幹事長からは、情議連は昭和 44 年に結成された 40 年余りの歴史と伝統のある議員連盟であることが紹介された。茂木事務局長・経産大臣からは、経済産業省が推進する重点 3 分野(① IT による公共部門効率化②データの利活用推進による産業全体の底上げと高付加価値化③エネルギー効率化とセンサネットワークによる防災減災対策)の実行を力強く述べられた。

議事に入り、「今後の情報政策について」と題して、永塚誠一経済産業省商務情報政策局長から、IT を活用したエネルギーマネジメントの推進、データ利活用環境の構築等の政策説明のほか、IT 戦略本部による新たな IT 戦略策定を予定していることが紹介された。

次に、JEITA からは、間塚道義副会長が、エレクトロニクス産業の現況に触れた後、新政権への期待として、安定的な供給と産業競争力維持の観点からのエネルギー政策の見直し、TPP・ITA(情報技術協定)等の経済連携の推進を要望したほか、IT エレクトロニクスの活用による経済再生を訴えた。

続いて、JISA からは浜口友一会長が要望に立った。浜口会長は、業界の見通しに久しぶりの明るさを感じている、新政権発足にあたって打ち出された方針の効果ではとの所感を述べられた。また、先週閣議決定した共通番号制度は、諸外国に比べて遅れている電子政府の取組の巻き返しになることを期待しているとコメントされた後、要望事項の説明を行った。その内容は次のとおり。

1. 共通番号制度の実現に向けた取組

(1) 共通番号制度の早期実現

- ・ 法案の早期成立
- ・ 3 年後の見直しを視野に入れた民間利用の検討
- ・ 公的認証の在り方の見直し

(2) 共通番号制度における法人番号の活用

- ・ 府省庁間での利用の促進による行政事務の効率化の推進
- ・ 企業間取引の効率化を促すための施策の検討

2. 政府 CIO の機能強化

(1)政府 CIO 法案の早期成立

- ・ 内閣情報通信政策監のリーダーシップの下での効率的な電子政府の実現
- ・ BPR の実施と国民視点での電子行政サービスの実現

(2)質の高い行政サービスの実現に資する情報システム調達制度の見直し

- ・ 発注者の調達体制の向上
- ・ 事業者の創意工夫や技術革新を考慮した技術評価制度の構築

3. 産業競争力強化

インフラモデルシステムの開発と輸出

- ・ 医療、ITS、農業分野での ICT を活用したモデルシステムの開発
- ・ 海外、特に ASEAN への輸出促進

4. 電子行政オープンデータ戦略の推進

(1)省庁間連携によるオープンデータ政策の推進

・ 省庁横断的にデータ公開を行う仕組み作りとその実践（公会計執行データ、地理空間情報、防災関連データ等）

- ・ オープンデータ・アイデアボックスの実施等による継続的なニーズの把握

(2)オープンデータの利活用に適したライセンスの付与

- ・ 民間で自由にデータの利活用を行うための改変可能ライセンス※の付与

※民間において編集及び改変、（商業利用も含む）活用が自由にできる趣旨の利用許諾

5. 高度 IT 人材育成の推進

産官学連携による IT 人材育成への継続的な財政支援

- ・ 世界トップクラスの実践的 IT 人材育成のための教育政策の推進
- ・ 4 府省（内閣官房・総務省・文部科学省・経済産業省）連携による効率的な人材育成施策の実施

※・新たなビジネスを創出するイノベーション人材

- ・ グローバルに活躍できる情報セキュリティ等のスペシャリスト人材

- ・ IT に関するソリューションを束ねるインテグレート人材

要望の説明の後、質疑応答に移った。今回は、昨年末の衆議院選挙結果により、情議連所属の国会議員が改選前の 60 名から 120 名に倍増し、当日は、53 名(衆議院 50 名、参議院 3 名)の出席があった。このため、質問に立った国会議員も 8 名に上った。その内容は、情報システムの調達運用の在り方、データセ

ンターの一極集中の是正、知的財産保護政策の在り方、IT 分野のベンチャー育成、番号制度実現後の住基ネットの取扱等多岐に渡ったが、浜口会長は、業界の実態、ご自身の SE 経験を踏まえて的確にコメントされた。予定の時間を越えた熱い質疑応答となった。

(田中)